

第 20 回日本子ども健康科学会学術大会

(子どもの心・体と環境を考える会)

The 20th Annual Meeting of Japanese Society of Health Science for Children

プログラム

テーマ

教育・医療・地域の連携で育てる子どもたちの心と体

- 会 期 平成 30 年 12 月 8 日 12 時 20 分 ～ 18 時 05 分
平成 30 年 12 月 9 日 9 時 00 分 ～ 15 時 45 分
- 会 場 千葉大学西千葉キャンパスけやき会館
- 会 長 下条 直樹 (千葉大学大学院医学研究院小児病態学)
- 主 催 日本こども健康科学会
- 後 援 厚生労働省
文部科学省
千葉県教育委員会
千葉市教育委員会
千葉県小児科医会
千葉県小児保健協会
千葉県保育協議会



日本子ども健康科学会
<http://www.jshsc.jp/>

会長ごあいさつ

第20回日本子ども健康科学会学術大会を平成30年12月8,9日開催させていただくことになりました。大変光栄なことで、医局員一同精一杯務めさせていただきます。前回の千葉県での開催は、平成15年の第5回の学術大会で、先代の河野陽一教授が会長をされました。実に15年ぶりの開催となります。会場は前回と同じで、千葉大学西千葉キャンパスのけやき会館です。東京駅からは会場まで1時間以内でおいでいただけます。ぜひとも多くの方々にご参加いただきますようお願い申し上げます。

現代の子どもたちを取り巻く環境は、以前より良くなっているでしょうか？多くの問題に対して多職種が連携を取りあう必要がありますが、個人的にはまだまだ職種間の話し合いもならず、また垣根も決して低くないと多くの人が感じているように思えます。そこで、今学会のテーマは、子どもたちを囲む様々な職種が一堂に会して率直に課題・問題を話し、討論し合うことで、子どもたちの心身の健やかな発達を目指す、という原点に戻り、「教育・医療・地域の連携で育てる子どもたちの心と体」としました。具体的なプログラムとしては、創設当時の千葉大学教育学部の素晴らしい教育への取り組みを確認させていただき、改めて教育の意味と力を考えてみたいと思い、基調講演を附属小学校校長である片岡洋子先生にお願いしました。また、公共放送でも取り上げられ大きな注目を浴びた大空小学校の活動について、校長をされていた木村泰子先生に特別講演をお願いしました。先生は現在大変お忙しい毎日をお過ごしですが、今回この大会にお出でいただけますことに心から御礼申し上げます。また、子どもたちの成長に関わる多職種間での相互理解を深めるための対話の方法の試みを、教育講演で千葉県精神保健福祉センターの石川真紀先生にお願いしました。シンポジウムとしては、子どもたちを取り巻く環境、発達障害児の学校でのケア、そして子どもたちの心と体を作る「食」をテーマとして考えてみました。一般演題も13題を数え、大変興味深いご発表をいただけると楽しみにしております。

学際性(interdisciplinary)はこの学会の大きな特徴です。教育・医療・地域という様々な領域に属する人々が率直に話し、討議し合って、より良い子どもたちのサポーターとなれることを期待しています。このような流れを続けていくために、学生の参加費は無料にしてあります。ぜひとも多くの皆様にお集まりいただけることを祈っております。

2018年12月8日

第20回日本子ども健康科学会学術大会
学術大会長 下条直樹
(千葉大学大学院医学研究院小児病態学)

第 20 回学術大会ならびに総会開催要項

I. 第 20 回学術大会

会期 2018 年 12 月 8 日（土）、9 日（日）

会場 千葉大学西千葉キャンパスけやき会館 大ホール（1F）

住所：千葉市稲毛区弥生 1-33 千葉大学西千葉キャンパス構内

II. 理事会

2018 年 12 月 9 日（日） 12 時 35 分～13 時 45 分

会場 千葉大学西千葉キャンパスけやき会館 中会議室（3F）

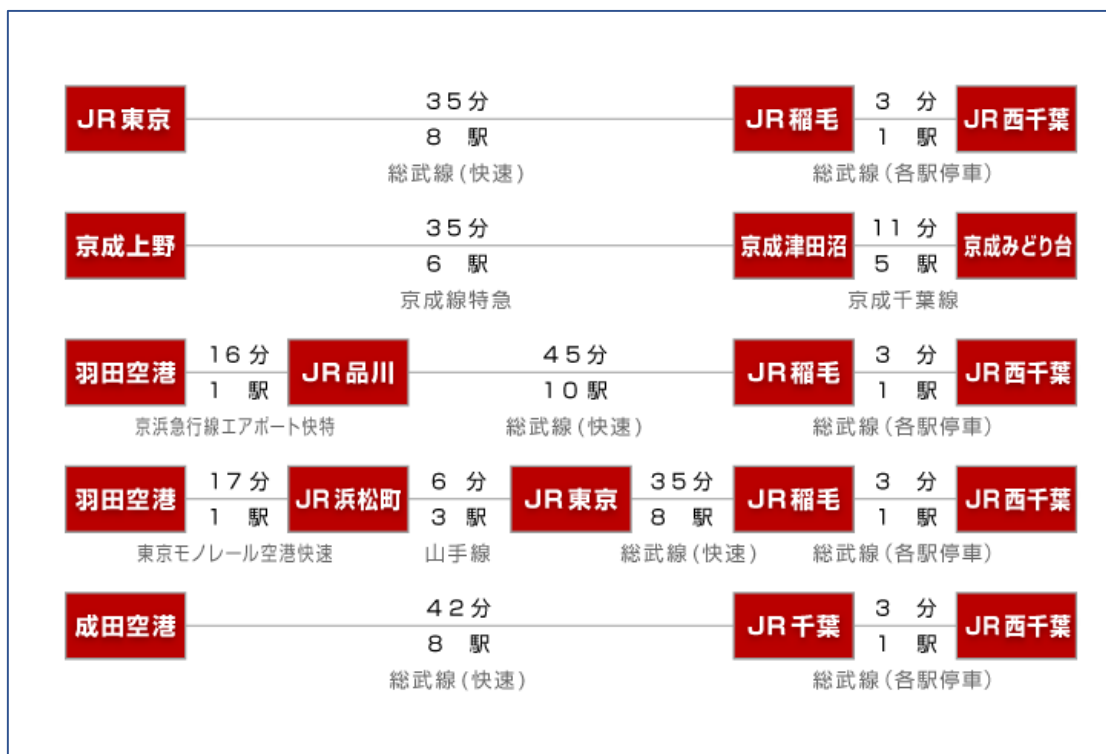
III. 交通のご案内

所在地：千葉市稲毛区弥生 1-33 千葉大学西千葉キャンパス構内

アクセス：JR 西千葉駅（北口）南門を經由し徒歩 7 分

京成電鉄みどり台正門を經由し徒歩 7 分

会場は正門左脇の建物です。構内に駐車場はございません。



会場のご案内



- 大ホール : 学会会場
- 会議室2 : 学会本部
- 中会議室 : 理事会・シンポジウム打ち合わせ
- レストラン : 懇親会会場

タイムテーブル

第1日：12月8日(土)

11:30 受付開始

12:15 開会挨拶

12:20-13:00 基調講演

学校教育は誰のため、何のためか - 20世紀初頭の「新教育」と現代の教育をつなぐ-

(座長:横田雅史)

千葉大教育学部教授・附属小校長 片岡洋子

13:10-15:40 シンポジウム1(各演者30分、総合討論なし)

子どもたちを取り巻く環境をどうするか

(座長:大矢幸弘、高橋裕子)

1. エコチル調査でわかってきたこと

千葉大学予防医学センター 山本 緑

2. 健康に育つ遊びの環境とは ~ 公園、園庭・校庭、自然環境等のこれからの方向

千葉大学園芸学部 木下 勇

3. 子どもの貧困と健康

千葉大学予防医学センター 近藤克則

4. いま手の中にある機器 ~ゲーム使用障害の子どもたちの実態~

久里浜医療センター 三原聡子

5. 子どもの睡眠負債が危ない

明治薬科大学 駒田陽子

15:55-18:05 一般演題(発表7分、討論3分)

アレルギー

(座長:高増哲也、松原知代)

1. 換気不全による湿気の影響と気管支喘息、アレルギー性鼻炎の症状の関連が示唆された一例

国立成育医療研究センターアレルギーセンター 石川 史

2. 牛乳アレルギー患者の骨密度調査と栄養教育

名古屋学芸大学管理栄養学部 菱田 蘭

3. 食物アレルギー児への食教育

名古屋学芸大学管理栄養学部 水野伽世子

4. アレルギー疾患児をもつ養育者を対象としたアレルギー予防に関する意識調査

国立成育医療研究センターアレルギー科 山本貴和子

地域・社会

(座長:田中大介、益子育代)

1. 子ども食堂の存続に係る運営者の実践モチベーションの研究

— 大阪府高槻市の子ども食堂の現状と課題—

平安女学院大学短期大学部保育科 糸井 菜々子

2. 困難を抱える子どもを支える子ども食堂におけるソーシャルワークの有用性

—大阪府高槻市富田地区における「ただいま食堂」の実践から—

一般社団法人タウンスペースWAKWAK 岡本工介

3. 放課後等サービス利用者の援助ニーズの考察~保護者の視点から~

跡見学園女子大学人文科学研究科 渡邊孝祐

4. 千葉大学医学部・薬学部・看護学部・教育学部学生が共同で行う未就学児に

対する医療・保健教育活動とその意義、および参加学生の意識に関する報告

千葉大学医学部 河田優介

発達・心理

(座長:柴田玲子、杉浦太一)

1. 電子メディア講習前後の理解度の変化と影響因子 —乳幼児の保護者アンケート結果から—

宮崎県立看護大学 甲斐鈴恵

2. 保育園に在籍する3~5歳児の日常生活調査と母子関係の関連性の検討

東京家政大学人文学部心理カウンセリング学科 梅原 碧

3. 都市部における発達相談の傾向

豊洲子ども家庭支援センター(みずべ)臨床心理士言語聴覚士 南 めぐみ

4. 情緒障害のある生徒のやる気を引き出す支援方法に関する一考察

千葉市立星久喜中学校 谷 麻紗美

5. 慢性疾患を有する児の身体的、心理社会的状況等に関する実態調査

国立成育医療研究センターエコチル調査メディカルサポートセンター 佐々木八十子

18:20-19:45 懇親会(レストラン コルザ)

第2日：12月9日(日)

8:30 受付開始

9:00-9:45 特別講演

みんながつくる みんなの学校 -すべての子供の学習権を保証する-

(座長：中山健夫)

大空小学校初代校長 木村泰子

9:45-11:45 シンポジウム2(各演者15分、総合討論60分)

発達障害児のための教育と医療の連携

(座長：古荘純一、永沢佳純)

1. 学校での取り組み

元江戸川区立小学校教諭 神尾敏幸

2. 学校と保護者が協力するために

NPO法人ちばMDエコネット 山田晴子

3. 養護教諭にできること

山武市立睦岡小学校 樹原 薫

4. 医師に求められる役割

千葉県千葉リハビリテーションセンター 永沢佳純

(総合討論コメンテーター：木村泰子)

11:55-12:35 教育講演

フィンランドのAnticipation Dialoguesの紹介

～発達障害疑い時や対立する連携会議での早期対話～

(座長：近喰ふじ子)

千葉県精神保健福祉センター 石川真紀

12:35-13:45 お昼休み(理事会)

13:45-15:45 シンポジウム3(各演者30分、総合討論なし)

子どもたちの食を考える

(座長：伊藤浩明、松崎くみ子)

1. 新学習指導要領を踏まえた学校の食育

文部科学省健康教育調査官 横嶋 剛

2. 学校給食における食物アレルギー対応について

栃木市教育委員会 中田智子

3. 今どきの子どものお口事情

千葉県小児歯科医会 兼元妙子

4. 思春期におけるダイエットと拒食について

千葉大学教育学部 花澤 寿

15:50～ 閉会挨拶・次期会長挨拶

参加者のみなさまへ

●参加受付

①受付

- ・受付場所は、千葉大学西千葉キャンパスけやき会館になります。
- ・受付開始時間は以下のとおりです。

12月8日(土) 11:30

12月9日(日) 8:30

②参加費

- ・ご参加の方は、当日に受付で参加費をお支払いください。

会 員 4,000 円

非会員 5,000 円

学 生 (学生証をご持参下さい) 無料

③抄録集

- ・一 部 1,000 円

④懇親会

- ・参加費 3,000 円
- ・会 場 レストラン コルザ (けやき会館 1F)
- ・時 間 18時20分～19時45分

●クローク

- ・クロークは特に設置致しません。お荷物は、ご自身でお持ちくださいますようお願いいたします。

発表者のみなさまへ

●一般演題発表形式

- ・口演での御発表にさせていただきました。
- ・発表 7 分、質疑応答 3 分です。時間厳守をお願いします。

●座長、司会の先生へ

- ・セッション開始 30 分前までに受付をお願いします。
- ・セッション開始 10 分前までに次座長席にて待機願います。

●演者の先生へ(発表準備)

★プレゼンテーションファイルについて★

プレゼンテーションは Windows 版パワーポイント 2010/2013 で作成してください。

XGA をお願いします。

※ Macintosh の場合は PC 本体をお持ち込み下さい。本体をお持ち込みの際は、外部モニター接続端子 (Mini D-sub15 ピン) をご確認のうえ、変換コネクタを必要とする場合は必ずご持参下さい。また、AC アダプターも必ずご持参下さい。

プレゼンテーションは 11 月 30 日までに学術大会事務局に送っていただきます。念のため、発表データは USB フラッシュメモリーを当日ご持参ください。(当日の差し替え可)。 お送りいただいたファイルは学会終了後に責任を持って消去致します。

送り先 運営事務局担当 e-mail : t-suzuki@chiba-u.jp

日本子ども健康科学会（子どもの心・体と環境を考える会）学術大会 歴代会長

- 第1回 飯倉洋治 昭和大学医学部教授
東京都 1999.12.19
- 第2回 飯倉洋治 昭和大学医学部教授
東京都 2000.12.10
- 第3回 小林章雄 愛知医科大学医学部教授
愛知県 2001.12.23
- 第4回 五郷晋浩 文京学院大学大学院人間学部教授
東京都 2002.11.22-23
- 第5回 河野陽一 千葉大学大学院医学教授
千葉県 2003.12.12-13
- 第6回 長嶋正實 あいち小児保健総合センターセンター長
愛知県 2004.12.4-5
- 第7回 奥山眞紀子 国立成育医療センターこころの診療部部長
東京都 2005.12.3-4
- 第8回 近喰ふじ子 東京家政大学文学部心理教育学科教授
東京都 2006.12.16-17
- 第9回 大矢幸弘 国立成育センター第一専門診療部アレルギー科医長
東京都 2007.11.23
- 第10回 横田雅史 愛知みずほ大学人間科学部教授
愛知県 2008.12.6-7
- 第11回 津田彰 久留米大学文学部心理学科教授
福岡県 2009.12.12-13
- 第12回 田中大介 昭和大学医学部准教授
東京都 2011.3.26-27
- 第13回 松寄くみ子 跡見学園女子大学文学部臨床心理学科教授
東京都 2011.12.17-18
- 第14回 神山潤 東京ベイ浦安市川医療センターセンター長
東京都 2012.12.1-2
- 第15回 宇理須厚雄 藤田保健衛生大学坂分種報徳會病院小児科教授/アレルギーセンター長
愛知県 2013.12.14-15
- 第16回 中山健夫 京都大学大学院医学研究科教授
京都府 2014.12.13-14
- 第17回 古荘純一 青山学院大学教育人間科学部教育学科
東京都 2016.3.5-6
- 第18回 田中大介 昭和大学大学院保健医療学研究科
東京都 2017.3.18-19
- 第19回 高橋裕子 京都大学大学院医学研究科特任教授
奈良県 2017.12.9
- 第20回 下条直樹 千葉大学大学院医学研究院小児病態学教授/アレルギーセンター長
千葉県 2018.12.8-9

第20回日本子ども健康科学会学術大会 事務局名簿

会長 下条直樹
事務局長 藤井克則
事務局 日野もえ子 五十嵐照美 鈴木智子

(千葉大学大学院医学研究院小児病態学)

後援 文部科学省、厚生労働省、
千葉県教育庁教育振興部、千葉市教育委員会、
千葉大学

協賛 鳥居薬品
シャイアー・ジャパン
雪印ビーンスターク
ハウス食品
アレクシオンファーマ
マイランEPD合同会社
ツムラ
アステラス製薬
大塚製薬
大鵬薬品
デンカ生研
中外製薬
ミズホメディー
(株)ポーラファルマ
(株)ニホン・ミック
CSLベーリング
ファイザー
日本血液製剤
バイエル薬品
アイクレオ

(順不同)